

株主のみなさまへ

---

# 第104期 事業報告書

平成17年4月1日から

平成18年3月31日まで



静甲株式会社

## 目 次

---

● ごあいさつ	1
● 営業の概況	2
● 業績の推移（個別）	6
● 業績の推移（連結）	7
● 個別財務諸表要旨	8
● 連結財務諸表要旨	9
● トピックス	10
● 会社の概況	11
● 株式事務のご案内	13

# ごあいさつ

株主の皆さまにはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当社第104期（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）の営業の概況についてご報告申し上げます。

当期におけるわが国の経済は、企業収益の改善から製造業を中心に設備投資が増加したため、原材料や素材の価格上昇など先行きに対する懸念はあるものの、景気は全体として回復傾向にありました。

このような経済環境の中で、当社は顧客満足の向上を重要な経営目標に掲げ、製品及びサービスの品質向上に努め、受注及び販売活動を推進して収益の確保に努めてまいりました。

この結果、生産部門の包装機械では売上が回復傾向となり、冷間鍛造製品でも電動工具部品が好調であったことから売上を伸ばすことができました。また、商事部門もFA関連機器を中心に販売が好調に推移しましたので、売上高は全体で95億6千万円（前期比4.3%増）となりました。しかしながら、経常利益は、包装機械の製造販売で、価格競争の影響を受け販売価格が低下したことや、客先への納入時期が集中して工場の安定した操業が維持できず外注費が増加したことなどに加え、材料費の価格上昇なども影響し、3億1千2百万円（前期比4.3%減）となりました。また、当期より減損会計を適用し減損損失1億6千6百万円を計上いたしましたので、当期純利益は6千2百万円（前期比70.4%減）となりました。

当期の利益配当金につきましては、1株につき8円として、先に実施いたしました中間配当金と合計した年間の支払配当金は1株につき16円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月

取締役社長 鈴木 恵子

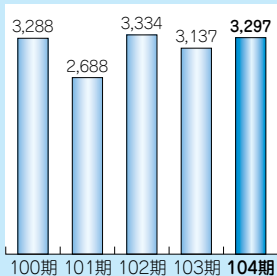
# 営業の概況

## 生産部門

### 包装機械

一時期低迷した売上高は回復傾向にあり前期実績を上回りましたが、依然として設備投資に対して慎重な顧客も多く、工場の安定的な操業を維持するまでの本格的な受注の回復までには至りませんでした。しかし、ここ数年、大型物件が減少し価格競争も厳しさを増す中で医薬品業界からの受注獲得に努めた結果、ケーサー及びカートナーの大型物件を受注し納入することができ、売上高は32億9千7百万円（前期比5.1%増）となりました。

包装機械売上高



単位：百万円



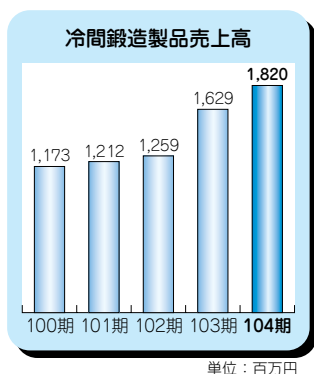
サーボ式半自動充填機



食用油充填ライン

## 冷間鍛造

前期に引き続き電動工具部品が好調で増産となったため、当期も三交替勤務によるフル操業の生産を続けました。このように工場の操業が高い水準で推移する中、労働災害を防止するために安全面に配慮した設備投資も行いました。また、金型製造設備を強化し、金型の品質向上とプレスラインへの安定供給を図るとともに、プレス機の自動化推進にも取り組み生産効率の向上に努めた結果、売上高は前期を上回る18億2千万円（前期比11.7%増）となりました。



新規受注の電動工具用部品

この結果、環境機器を加えた生産部門全体では、売上高は51億6千4百万円（前期比7.4%増）となりました。

### 〔生産部門の対処すべき課題〕

包装機械では、安定した受注を確保するため、多品種生産向けパウチ充填シール機の拡販キャンペーンや医薬品業界向けカートナーの販売強化などを通して、積極的な受注活動を展開してまいります。一方、コスト面につきましては、主力製品であります充填巻締機のセミオーダー化実現に取り組み、製造期間短縮やコスト削減を図ってまいります。また、新たに開発したボトルハンドリング技術を利用した充填機をラインアップに加え、お客様のニーズに合った製品の開発に努めます。

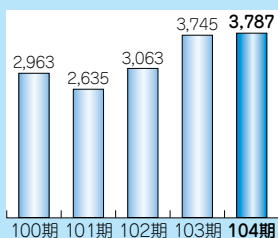
冷間鍛造製品では、今後もしばらくは受注高が高い水準で推移することが予想されます。そこで、三交替勤務による生産を継続しながら、お客様の希望納期に対応できるよう、外部コンサルタントによる生産工程の改善やTPM（全員参加による生産保全活動）を通して生産効率の向上に取り組みます。また、引き合いに対する早期見積もりの提出等、顧客満足の向上をめざします。なお、環境マネジメントシステム（ISO14001）につきましては、平成18年4月に認証取得を完了いたしました。

## 商事部門

### 電機・設備機器

電機機器は、半導体や液晶関連から自動車関連へと需要の中心が移る中でも活発な設備投資に支えられ、FA関連機器を中心に引き続き好調に推移しました。また、設備機器でも、空調設備のサービスで保守・修理の受注が順調であり、冷熱機器の売上も好調であったため、電機・設備機器全体の売上高は37億8千7百万円(前期比1.1%増)となりました。

#### 電機・設備機器売上高



単位：百万円

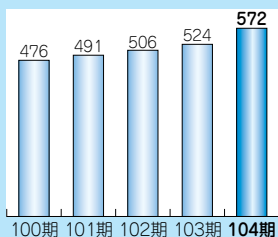


三菱電機(株)製  
インバータ A700

### タイヤ

原油価格の高騰に伴い、輸送業界においては燃料費のコスト増加が大きな課題となり、タイヤの買い控えの動きがみられる中、昨年末の記録的な積雪により、冬用タイヤの売上が予想以上に伸びたことから、売上高は5億7千2百万円(前期比9.1%増)となりました。

#### タイヤ売上高



単位：百万円



特殊吸音スポンジ搭載  
ダンロップタイヤ LEMANS LM703

この結果、商事部門全体の売上高は、環境機器製品(他社製品)を含めて43億6千8百万円(前期比1.9%増)となりました。

### 〔商事部門の対処すべき課題〕

商事部門では、これまで県内中部を中心に販売活動を行ってまいりましたが、主力である電機機器の売上拡大のため、県内西部及び東部地区での販売強化に取り組みます。特に、自動車関連業界で活発な設備投資が見込まれる西部地区においては、人員を増強するなど営業体制の充実を図ってまいります。

また、多様化するお客様のニーズに対応するため、新規取扱商品を増やし商品ラインアップを充実させ、付加価値の高い商品を提供してまいります。



本社・清水工場



本社別館(商事部門)

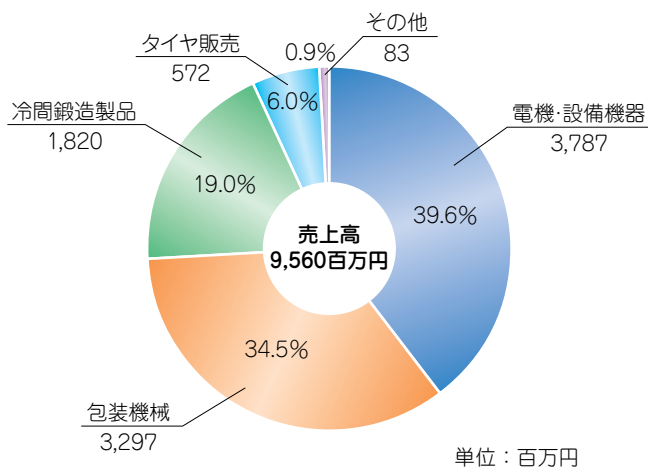


三島工場



富士川工場

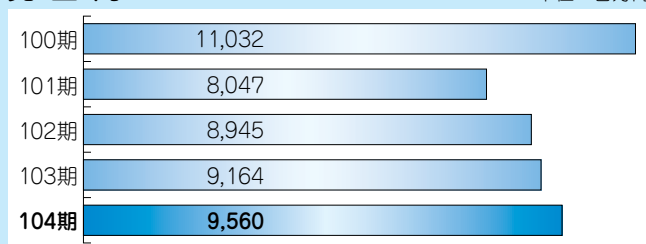
## 当期のセグメント別売上高比率



# 業績の推移（個別）

## 売上高

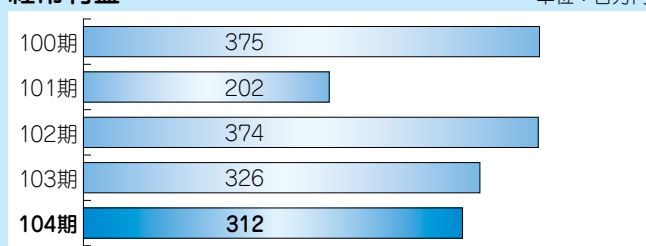
単位：百万円



101期の減少は、主として100期末をもって水道事業を廃止したことによるものです。

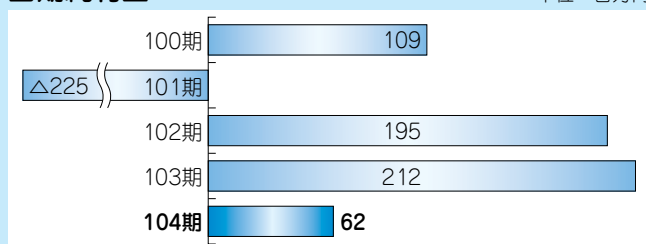
## 経常利益

単位：百万円



## 当期純利益

単位：百万円



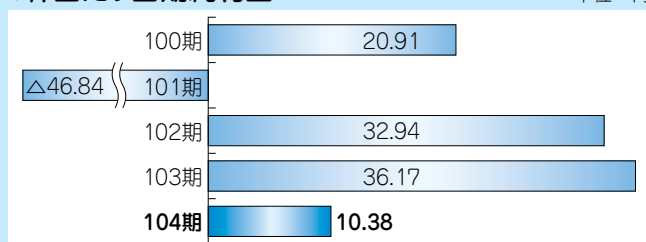
①100期は、退職給付会計基準変更時差異償却に伴う退職給付引当金繰入額4億2百万円を特別損失に計上しております。

②101期は、鈴木厚生年金基金脱退に伴う一括拠出金4億8千万円を特別損失に計上しております。

③104期は、固定資産の減損に係る会計基準及び同適用指針を適用し、減損損失1億6千6百万円を特別損失に計上しております。

## 1株当たり当期純利益

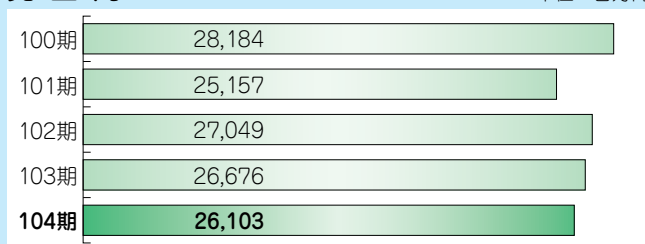
単位：円



# 業績の推移(連結)

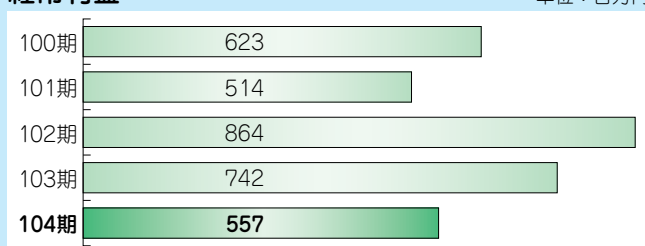
## 売上高

単位：百万円



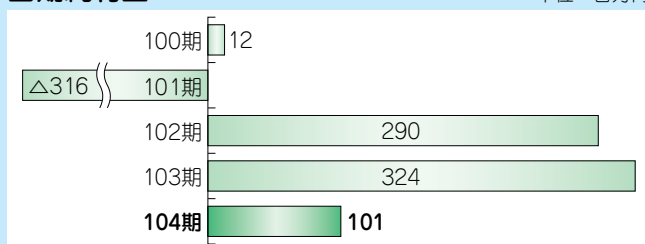
## 経常利益

単位：百万円



## 当期純利益

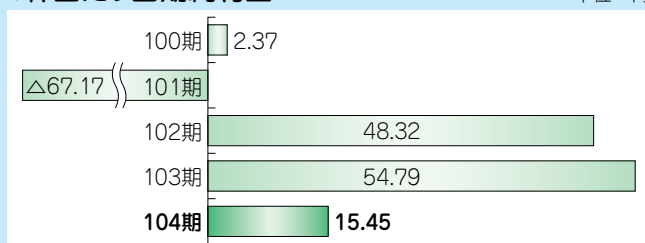
単位：百万円



- ①100期は、退職給付会計基準変更時差異償却に伴う退職給付引当金繰入額4億9千7百万円を特別損失に計上しております。
- ②101期は、鈴木厚生年金基金脱退に伴う一括拠出金9億3千9百万円を特別損失に計上しております。
- ③104期は、固定資産の減損に係る会計基準及び同適用指針を適用し、減損損失1億6千6百万円を特別損失に計上しております。

## 1株当たり当期純利益

単位：円



# 個別財務諸表要旨

## ■ 貸借対照表 (平成18年3月31日現在)

単位：千円

資産の部		負債及び資本の部	
<b>流動資産</b>	<b>5,570,946</b>	<b>流動負債</b>	<b>1,105,540</b>
現金及び預金	1,608,081	支払手形及び買掛金	644,769
受取手形及び売掛金	2,802,361	その他	460,771
たな卸資産	725,783		
その他	439,375	<b>固定負債</b>	<b>1,146,982</b>
貸倒引当金	△ 4,655	〈負債合計〉	〈 2,252,523〉
<b>固定資産</b>	<b>6,148,986</b>	<b>資本金</b>	<b>1,337,000</b>
(有形固定資産)	( 3,098,408)	資本剰余金	1,242,814
建物及び構築物	1,218,379	利益剰余金	6,204,302
土地	1,491,516	株式等評価差額金	683,292
その他	388,513	〈資本合計〉	〈 9,467,409〉
(無形固定資産)	( 27,690)		
(投資その他の資産)	( 3,022,887)		
投資有価証券	1,723,212		
その他	1,307,589		
貸倒引当金	△ 7,914		
<b>資産合計</b>	<b>11,719,933</b>	<b>負債及び資本合計</b>	<b>11,719,933</b>

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ■ 損益計算書 (平成17年4月1日～平成18年3月31日)

単位：千円

<b>売上高</b>	<b>9,560,799</b>
売上原価	8,045,661
販売費及び一般管理費	1,323,200
<b>営業利益</b>	<b>191,936</b>
営業外収益	138,778
営業外費用	17,726
<b>経常利益</b>	<b>312,989</b>
特別利益	131,914
特別損失	279,478
<b>税引前当期純利益</b>	<b>165,424</b>
法人税、住民税及び事業税	12,474
法人税等調整額	89,980
<b>当期純利益</b>	<b>62,969</b>
前期繰越利益	322,587
中間配当額	42,000
<b>当期末処分利益</b>	<b>343,557</b>

(注) 1. 当期より、固定資産の減損に係る会計基準及び同適用指針を適用し、減損損失166,416千円を特別損失に計上しております。  
2. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ■ 利益処分

単位：千円

<b>当期末処分利益</b>	<b>343,557</b>
任意積立金取崩額	17,872
特別償却準備金取崩額	1,065
買換資産圧縮記帳積立金取崩額	16,806
<b>合計</b>	<b>361,429</b>
<b>これを次のとおり処分します</b>	
<b>利益処分量</b>	<b>50,450</b>
利益配当金 (1株につき8円)	42,000
取締役賞与金	8,450
<b>次期繰越利益</b>	<b>310,979</b>

(注) 平成17年11月30日に42,000千円 (1株につき8円) の中間配当を実施いたしました。

# 連結財務諸表要旨

## ■ 連結貸借対照表 (平成18年3月31日現在)

単位：千円

資産の部		負債、少数株主持分及び資本の部	
<b>流動資産</b>	<b>8,388,354</b>	<b>流動負債</b>	<b>3,443,990</b>
現金及び預金	2,432,305	支払手形及び買掛金	2,199,933
受取手形及び売掛金	4,001,220	その他	1,244,056
たな卸資産	1,488,193		
その他	472,920	<b>固定負債</b>	<b>1,778,946</b>
貸倒引当金	△ 6,285	〈負債合計〉	〈 5,222,937〉
<b>固定資産</b>	<b>10,067,606</b>	〈少数株主持分〉	〈 2,261,287〉
(有形固定資産)	( 7,476,646)	<b>資本金</b>	<b>1,337,000</b>
建物及び構築物	2,740,722	資本剰余金	1,242,814
土地	3,924,686	利益剰余金	7,667,031
その他	811,236	株式等評価差額金	724,890
(無形固定資産)	( 96,194)	〈資本合計〉	〈10,971,737〉
(投資その他の資産)	( 2,494,765)		
投資有価証券	2,015,498		
その他	487,181		
貸倒引当金	△ 7,914		
<b>資産合計</b>	<b>18,455,961</b>	<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>18,455,961</b>

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ■ 連結損益計算書 (平成17年4月1日～平成18年3月31日)

単位：千円

<b>売上高</b>	<b>26,103,516</b>
売上原価	21,177,793
販売費及び一般管理費	4,427,961
<b>営業利益</b>	<b>497,761</b>
営業外収益	93,790
営業外費用	34,325
<b>経常利益</b>	<b>557,227</b>
特別利益	133,712
特別損失	285,784
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>405,154</b>
法人税、住民税及び事業税	128,000
法人税等調整額	105,898
少数株主利益	69,441
<b>当期純利益</b>	<b>101,814</b>

(注) 1. 当期より、固定資産の減損に係る会計基準及び同適用指針を適用し、減損損失166,416千円を特別損失に計上しております。  
2. 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結子会社の状況

会社名	資本金	当社の議決権比率	主な事業内容
日本機械商事株式会社 (本社：東京都)	150,000 <sup>千円</sup>	100.00%	包装機械の販売
静岡自動車株式会社	16,000	100.00	駐車場業・レンタカー業
静岡スバル自動車株式会社	961,000	50.35	自動車の販売修理
静岡バイオート株式会社	80,000	50.35	輸入自動車の販売修理

(注) 静岡バイオート株式会社は、静岡スバル自動車株式会社の100%子会社であります。

# トピックス

## ● 富士川工場でISO14001の認証を取得

冷間鍛造製品の製造工場である富士川工場で平成18年4月に環境マネジメントシステムの国際規格 ISO14001の認証を取得いたしました。今後も、環境保全を企業の社会的責任の重要な柱であると考え、環境への負荷低減に取り組んでまいります。



富士川工場



**JAB**  
EMS Accreditation  
RE007

## ● 清水工場と三島工場の包装機械を ジャパンパック2005に出展

ジャパンパックは、包装機械関連の展示会としては国内最大規模の展示会で2年に一度開催されています。当社は今回、パウチ充填シール機(清水工場製)及び小容量リキッドボトリングシステム(三島工場製)などを出展しました。

- ・開催場所 東京ビックサイト
- ・開催期間 平成17年10月18日(火)～22日(土)
- ・来場者数 124,861人
- ・出展社数 378社



## ● 三島新工場完成

三島工場(包装機械製造工場)の一部建て替えを行い、平成17年11月に耐震性の高い新工場が完成しました。



三島新工場

# 会社の概況 (平成18年3月31日現在)

- 社 名 静 甲 株 式 会 社 (SEIKO CORPORATION)
- 設 立 昭和14年5月18日
- 資 本 金 13億3,700万円
- 従 業 員 数 281名
- 事 業 内 容

## 生産部門

- 清 水 工 場
  - 充填巻締機などの包装機械及びロボット応用システムなどの産業機械の製造販売
  - あき缶自動選別回収機、紙カップ回収機などの環境機器の製造
- 富士川工場  
冷間鍛造製品の製造販売
- 三 島 工 場  
液体自動充填機などの自動包装プラントの製造販売

## 商事部門

- 本社別館・愛染事業所・浜松営業所・静岡営業所
  - FA機器、空調設備、モーター、非常用電源設備、エレベーターなどの総合電機設備機器の販売及び電機・空調設備工事
  - スーパー、ホイールローダー、クレーンなどの省力機械の販売
  - 自動車・産業用車両のタイヤ販売
  - 環境機器の販売

## 株式の状況

会社が発行する株式の総数 19,200,000株  
発行済株式の総数 5,250,000株  
株 主 の 総 数 377名  
大株主(上位7名)

株 主 名	持 株 数	議 決 権 比 率
鈴 与 株 式 会 社	1,264,000株	24.08%
鈴 木 辰 衛	800,000	15.24
有限会社テイエムケイ	340,000	6.48
株 式 会 社 静 岡 銀 行	260,000	4.95
株 式 会 社 清 水 銀 行	250,000	4.76
清 水 食 品 株 式 会 社	204,000	3.89
中央三井信託銀行株式会社	152,000	2.90

## ● 事業所一覧

本 社	〒424-0809	静岡県静岡市清水区天神二丁目8番1号 TEL (0543) 66-1030
本 社 別 館	〒424-0042	静岡県静岡市清水区高橋南町6番8号 TEL (0543) 66-1231
清 水 工 場	〒424-0809	静岡県静岡市清水区天神二丁目8番1号 TEL (0543) 66-0111
富 士 川 工 場	〒421-3301	静岡県庵原郡富士川町北松野873番地の6 TEL (0545) 85-1122
三 島 工 場	〒411-0822	静岡県三島市松本270番地 TEL (055) 977-1515
愛染事業所	〒424-0805	静岡県静岡市清水区愛染町21番地の1 TEL (0543) 66-9269
浜松営業所	〒435-0054	静岡県浜松市早出町1240番地の4 TEL (053) 465-2262
静岡営業所	〒420-0836	静岡県静岡市葵区東町1番地の1 TEL (054) 252-3237

## ● 役 員 (平成18年6月29日現在)

代表取締役 取締役社長	鈴 木 恵 子	
取 締 役	分 部 清 史	(管理部門・事業部門担当)
取 締 役	別 府 弘 祥	(包装機械事業担当)
取 締 役	小 野 田 敦	(静岡スバル自動車株式会社 代表取締役) 取締役社長
取 締 役	掛 下 昌 信	(日本機械商事株式会社 代表取締役会長) (本社：大阪府)
取 締 役	八 木 義 矩	
取 締 役	鈴 木 武 夫	(デンセイ・ラムタ株式会社 代表取締役社長)
常勤監査役	塩 谷 達 雄	
常勤監査役	福 島 茂 彦	
監 査 役	大 嶋 秀 龍	
監 査 役	梅 田 健 司	(梅田健司税理士事務所 所長)

## 株式事務のご案内

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	6月中
定時株主総会の 基準日	毎年3月31日
配当の基準日	期末配当…3月31日 中間配当…9月30日
公告掲載紙	日本経済新聞 なお、決算公告に代えて、貸借対照表、損益計算書は、EDINET（証券取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム）にて開示しております。 <EDINETホームページアドレス> <a href="https://info.edinet.go.jp">https://info.edinet.go.jp</a> ※貸借対照表及び損益計算書は当社ホームページIRコーナーでもご覧いただけます。 <当社ホームページアドレス> <a href="http://www.seiko-co.com">http://www.seiko-co.com</a>
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

〔株式の名義書換、配当金のお支払及び諸届等のお問い合わせは、上記株主名簿管理人の事務取扱所並びに同取次所でお取り扱いいたします。なお、証券保管振替機構に預託されました株券についての諸届及び手続等に関するお問い合わせは、お取引先の証券会社へお願いします。〕

